

会 議 録

会議の名称	第6回 本庄市公共施設等マネジメント推進審議会部会
開催日時	令和5年2月8日(水) 午前・午後10時00分から 午前・午後11時35分まで
開催場所	本庄市役所 6階 大会議室
出席者	審議会部会：松本部会長、田島副部会長、山田部会員、 逸見部会員、飯野部会員、高橋部会員、林部会員、 田中部会員、早野部会員、川田部会員 事務局：【教育委員会事務局】高橋事務局長 【教育総務課】笠原参事兼課長、新井副参事、 関根課長補佐、松島主任 【学校教育課】岡芹課長、瀧澤課長補佐、 大澤課長補佐、高柳主査 【企画課】鈴木課長補佐、荒井主任 コンサル：東日本総合計画株式会社 喜渡、大山
欠席者	山崎部会員、工藤部会員
議題 (次第)	1 開会 2 あいさつ 3 議題 本庄市立小・中学校の適正規模及び適正配置の基本的な考え方(案)について 4 その他 5 閉会
配付資料	・第6回本庄市公共施設等マネジメント推進審議会部会次第 ・本庄市公共施設等マネジメント推進審議会部会 部会員名簿 ・【資料1】本庄市立小・中学校の適正規模及び適正配置の基本的な考え方(案)について
主管課	教育委員会事務局教育総務課

会 議 の 経 過	
発 言 者	発言内容・決定事項等
事務局 (教育総務課副参事)	本日はお忙しい中、「第6回 本庄市公共施設等マネジメント推進審議会部会」にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。私は進行を務めさせていただきます、教育総務課の新井と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

	<p>新型コロナウイルス感染症に関する対策として、入室時の検温等にご協力いただき、誠にありがとうございました。</p> <p>それでは、会議に先立ちまして、報告と配布資料の確認をさせていただきます。</p> <p>本庄市公共施設等マネジメント推進審議会規則第2条に基づき、本会議は公開といたします。同規則第3条の規定により、本会議の開催について市ホームページで公表し、傍聴人については定員数10名としてご案内したところ、1名の申し込みがございました。本日につきましては、非公開事項を有する議題はありませんので、傍聴者につきましては手続を行い、入室していただいております。</p> <p>なお、会議録作成のため、事務局にて本会議を録音させていただきます。あらかじめご了承ください。</p> <p>次に、配布資料の確認をさせていただきます。本日、机の上に配布させていただいた資料として、「本日の次第」「本庄市公共施設等マネジメント推進審議会部会 部会員名簿」、「【資料1】本庄市立小・中学校の適正規模及び適正配置の基本的な考え方（案）について」、以上3点となります。資料等の不足はございませんでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">（なし）</p> <p>ご確認ありがとうございます。</p> <p>報告や配布資料の確認につきましては、以上でございます。</p> <p>それでは、これより会議を開催させていただきます。</p> <p>進めさせていただく前に、本審議会部会の部会長である松本部会長より、ご挨拶を頂戴したいと思います。松本部会長、よろしくお願いいたします。</p>
<p>松本部会長</p>	<p>おはようございます。新型コロナウイルス感染症も少しずつ収まりを見せてきました。この時期は大学入試、高校入試があり、既に私立高校の入試はピークを過ぎ、残すは公立高校の入学試験という状況です。新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症が拡大せず、中学3年生が自分の力を十分発揮して、希望する高等学校へ入学できたらと思います。</p> <p>今日は、第6回、最終回の会議を迎えることになりました。これまで、部会員の皆さんには大変お世話になり、いろいろな面からご意見を頂戴いたしました。今日はまとめということでご意見をお出しいただき、本庄市の小・中学校が適正規模・適</p>

	正配置の中でうまく運びますようお願いを申し上げて、挨拶に代えさせていただきます。
事務局 (教育総務課副参事)	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、次第3「議題」に移らせていただきます。</p> <p>議題の進行につきましては、「本庄市公共施設等マネジメント推進審議会規則第8条第1項」の規定により、部会長が議長となつて行うこととなっております。これからの議題の進行につきましては、松本部会長をお願いしたいと思います。</p> <p>松本部会長、よろしく願いいたします。</p>
議長	<p>会長が会議の議長を行うということでございますので、この後の議題につきまして、進行を務めさせていただきます。会議のスムーズな運営に、ご協力をお願い申し上げます。</p> <p>それでは、早速、議題に入らせていただきます。</p> <p>「本庄市立小・中学校の適正規模及び適正配置の基本的な考え方(案)」について、事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局 (高柳主査)	(資料に基づき説明)
議長	<p>事務局から、アンケートについて、最終結果としてデータを反映させたということ、小中一貫について、これまでいただいた意見を反映させたということ、さらにこの適正規模・適正配置については、市のまちづくり計画と密接に結びつくため、この点を反映させたということ、また検討時期についても、施設の状況等を総合的に鑑みて進めていかなければならないため、18ページ(3)配慮事項を付け加えたという説明がありました。前回までの皆さんのご意見は反映されたということによろしいですか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>それでは、最終回ですので、最後の確認をさせていただきます。</p> <p>1. はじめに、2. 本庄市立小・中学校の現状、3. アンケート調査については事実なので、このままでいいことを前回確認しています。4. 適正規模の基本的な考え方、5. 適正配置の基本的な考え方、6. 具体的な進め方、この3点について部会の意見を出していく必要があるので、絞りながら進めたいと思います。</p> <p>13ページ4. 本庄市における適正規模の基本的な考え方、(1)学校の適正な規模についてです。第2回の会議で、仁手小学校と本庄東小学校を見学し、仁手小学校は小規模校で、特区の制度を導入していると説明がありました。本庄市教育委員会はこの制度を導入しているので、この状況も考え方に入れた方がいいと思います。</p>

	この制度は、仁手小学校は人数が少ないので学区外から通学してもいい、その代わり登下校の安全は保護者が責任をもつというものです。事務局に聞きますが、この制度を何人利用していますか。
事務局 (瀧澤課長補佐)	平成31年度から小規模特認校制度として開始し、今までに8名が利用しています。
議長	<p>小規模の学校を維持させようということで、特区の制度を導入して仁手小学校の維持を図ってきたという取組を示し、制度のポイントを載せておけば、広く制度を認知していただけたと思うので、(1)にこの制度と現状を入れてもいいと思います。想定した利用人数ではないかもしれませんが、利用して教育を受けている児童もいることを紹介してもいいと思いますが、皆さんいかがでしょう。</p> <p>(異議なし)</p> <p>ご異議なしということで、事務局には、取り組んできた制度の記載をお願いします。</p>
事務局 (瀧澤課長補佐)	小規模特認校の制度は、本市の指定校変更制度の取組の一つで、少人数ならではのきめ細やかな指導や地域の特性をいかした体験活動など、特色ある教育活動を行う学校を教育委員会が指定することで、一定の条件の下で、市内全域からこのような環境を希望する児童の入学を認めるという制度です。小規模校の人数を増やす目的もありますが、そういう教育を受けさせたいという保護者のニーズに応える制度とご理解いただければと思います。
議長	小規模校は1クラスの人数が少ないので、きめ細やかな指導ができることを活用した教育を受けさせる制度ということです。当然、小規模校に子供が集まれば、その学校は少し人数が増えるので、小規模校対策にもなります。平成31年から始めたので、小規模校対策という感じもします。
逸見部会員	共和小学校区の吉田林の一部が児玉小学校に通っていますが、どういう理由でしょうか。
飯野部会員	バイパスができて、渡るのが危ないという経緯があったと思います。児玉小学校の方が近いこともあります。
議長	小・中学校の場合は、教育委員会が通学区域を指定するので、地域の方々の了解を得て、安全のために、共和小学校地区だけでも学校の指定は児玉小学校としたと想定されます。
逸見部会員	今後、例えば本庄東中学校区の小学校が統合した場合、国道17号を渡ることになりますが、安全面で、歩道橋を作るとか考えるの

	でしょうか。
田島副部長	国道17号の北側に、本庄道路といいますが、17号バイパスができます。仮に、仁手小学校が本庄東小学校へ統合となると、17号バイパスと国道17号の2つの道路を横断することになります。
議長	今回新たに加えた6.(3)配慮事項で示したまちづくりとも関係してくることになります。大きな道路ができれば、当然安全策を講じざるを得なくなると思います。
事務局 (学校教育課長)	国道17号を渡る場合などの安全面につきましては、学校とも相談をして、安全に配慮して登校できるように検討を進めなければいけないので、必要に応じて対策を講じていくと考えております。
山田部会員	本庄東小学校の登下校で、現在、国道17号を渡る子供たちがいます。登校時は、緑のチョッキを着た方に指導していただいているので、17号を渡ることに関して特に意見はないです。 工事をしている箇所で、歩道が狭くなっているという話などはありますが、その都度対応をしている状況です。
議長	<p>前回、田中部会員から、児玉小学校区で秋平小学校に通っている子供たちがいるという話がありましたが、地域の皆さんと教育委員会の話し合いの下に、学校を指定することがあることをご承知おきいただきたいと思います。</p> <p>市町村をまたぐのは区域外就学といい、深谷市から本庄市の学校へ通学する、その逆で本庄市から深谷市へ通学するなど、保護者や祖父母の関係で利用する例もあります。また、中学校では部活動等の関係で、特に町に1校しかない中学校の場合などは、部活が存続できなくなるなどの理由で、他の市町の中学校の部活に入れてもらうために区域外就学を利用することがあります。</p> <p>4. 適正規模を再度確認したいと思います。16ページ(4)の四角の中で、「少子化の進行が予想される中、望ましい規模を小学校は全学年でクラス替えができる1学年2学級以上、中学校は教科担任が学習指導できる9学級以上とする。」という内容です。ご異議がなければ、5. 適正配置に進んでよろしいですか。</p> <p style="text-align: center;">(異議なし)</p> <p>それでは、5. 適正配置です。教育委員会の基本的な考えは、(1)で①②③と三つ示されています。本庄市教育委員会の特に大事な考え方は、「地理的特性を踏まえ、中学校については、現在の4校</p>

体制を維持していく」という部分だと思いますが、4中学校の体制の中で小学校の適正配置を考えていくとなっています。これでもよろしいでしょうか。

(異議なし)

(2) 本庄市立小・中学校の適正配置の基本的な考え方で、「通学距離は、小学校はおおむね4 km以内、中学校はおおむね6 km以内、通学時間はおおむね1時間以内、ただし、地域の実情に応じてスクールバス等の通学手段を検討する。」とあります。既に本庄市の場合、秋平小学校でスクールバスによる通学を行っていますので、今後必要な場合は、この事例を利用して進められると思います。適正規模・適正配置の考え方は、基本的には国の考え方に準じていますので、大きな問題はないと思います。

それでは6. 適正規模及び適正配置の具体的な進め方で、地域の皆さん、保護者の皆さんが、一番関心を持たれる部分だと思います。どこの学校を統合するか、いつ、どういうふうにするか、残った校舎はどうなるかなど、様々な憶測が飛び交うと思います。これは基本的な考え方ですので、具体的な学校や時期を示すものではなく、この考えに基づいて進めていくものと捉えていただければと思います。

まず(1) 検討基準について、小学校、中学校とも複式学級の編成が見込まれる場合は、直ちに適正規模化の検討を進めていく、それから、単学級の学年が見込まれる場合は、将来の児童数を考慮した上で、適正規模化の検討を行うということです。文言的には複式の場合は直ちにとということで、スピード感を持ってやっていく、単学級の場合は、将来のことを十分見込みながらやっていくという、少し余裕を持たせた書き方になっています。単学級の場合でも、早い時期に複式学級になりそうなところとそうでないところがあるので、教育委員会、学校、地域、保護者の皆さんで時期を考えて進めるということになると思います。(1)は問題ないですか。

(異議なし)

(2) 方策について、教育委員会として二つの方策を示しています。①通学区域の見直しですが、先ほどの共和小学校区や秋平小学校区の例で、地域の皆さんの意向があり、了解が得られれば、多少の指定校変更で可能かと思いますが、長い間培ってきた地域の絆、

	つながり、コミュニティなどが崩れてしまうこともありますので、非常に難しいと思います。
田中部会員	通学区の見直しで、「通学路の安全、通学距離、児童生徒数、地域との関係」とありますが、部活動の関係があってもいいと思います。中学校によって、ある部活とない部活があり、部活によって学校を希望することが今後増えると考えられるので、通学区の見直しの基準にその選択肢があってもいいと思います。
事務局 (学校教育課長)	現在、入りたい部活がない場合、指定校変更できる制度がありますので、そういう生徒がいた場合は、指定校変更で希望の部活に入部することは可能です。
議長	田中部会員の意見は、見直しの部分に部活動という項目を入れてもいいのではないかとということでしたが、そこまでは踏み込めないですか。
田中部会員	指定校変更は知っており、利用には若干ハードルがあることは皆様方もご存じだと思います。指定校変更ではなく、通学区見直しの選択肢に入れられるかで、議論が長引くとは思いますが、今後の選択肢として記述してもいいと思い提案しました。踏み込むのが厳しいなら仕方がないですが、部活動は結構大きなウエートを占めます。子供が減って大人数の部活もできなくなっているのので、部活動を選択できる状況にした方がいいと思い、伺いました。
議長	部活動を管轄するスポーツ庁が、学校の先生ではなく、地域スポーツという方向に移行していく考え方を示しています。地域スポーツですから、地域に指導者がいないと成り立たず、教育委員会は、指導者の養成と確保、指導する場と時間を中学生にどのように提供するかなど、難しい問題に今後直面すると思います。今後、中学生が学校を選択する一つになってくる可能性もありますので、田中部会員の意見も一理あると思います。
事務局 (学校教育課長)	部活動によって学校を選択できることについて、通学区の見直しに踏み込むというのは、なかなか難しいところがあると考えております。
田中部会員	この意見が出たということをもとめておいてください。
議長	会議録の中に意見が出たことをしっかりと記録しておいてください。学校の目的は、学力の向上や人間力の向上という部分で、特に部活動は教育課程の中には入っていないので、教育委員会があえて書くのは難しいかもしれませんが、中学生の生徒指導の一部分を部活動が占めているのは事実だと思います。川田部会員、部活動と生徒指導について説明をお願いします。
川田部会員	部活動は、その子の得意とするものを伸ばして活躍の場を多く

	<p>設けるという意味で、生徒指導につながる部分はあると思います。今後、部活動がどうなっていくのか、地域に移行して教員が携わらなくなるのか、それとも学校の中で教員が対応していくのか、まだ決まっていません。今後方向性が決まり、部活がある学校に指定校変更するのではなく、その地域の中にあるクラブチームに行けるようになれば、学校は違っても部活は同じとなっていくなど、この辺が定かにならないと、話はなかなか進まないと思います。</p> <p>本庄東中学校に男子バレーボール部がないため、現在は指定校を変更することで、本庄東中学校から児玉中学校に行くケースがあります。また、学校規模が小さくなっていくと、顧問が充てられなくなり、部活動も継続していくことが難しいというのが現実としてあります。</p>
議長	<p>現状、部活動は、子供たちの活躍の場を確保するという面で役に立っているということです。ただ、部活動がどのように変わっていくかは、先が読めない話でもあるので、今後、更に検討していく必要があり、教育委員会の課題でもあると思います。</p> <p>それでは、通学区の見直しの次の学校統合です。学校統合については、「規模に関わらず、対等の関係が望ましいと考えます。」とありますが、ご意見はありますか。</p>
山田部会員	<p>対等の関係というのが分かりづらいです。</p>
議長	<p>一般的に考えると、統合前のどちらの学校の出身であっても、お互いに尊重されるという捉え方だと思いますが、事務局いかがですか。</p>
事務局 (参事兼教育総務課長)	<p>本庄市の市町村合併で考えるとわかりやすいと思います。旧本庄市と旧児玉町が合併し、新しい本庄市ができましたが、学校も同じような関係で、A学校とB学校が統合すると仮定しますと、どちらかの学校に片寄せになるのではなく、2校が一緒になり新しい学校ができるというイメージで考えています。</p>
議長	<p>(2) については、よろしいですか。</p> <p style="text-align: center;">(異議なし)</p> <p>それでは(3) 配慮事項について、三つあります。①情報提供・共有、②地域やまちづくりとの連携、③適正規模及び適正配置の方策を検討する時期です。①情報提供・共有で、事務局に質問ですが、アンケート調査で、保護者や市民の皆さんから、反響やご意見はありましたか。</p>
事務局 (参事兼教育総務課長)	<p>アンケート全般について、学校運営協議会を含めた学校関係者や保護者から、特にご意見等は事務局には届いていない状況です。</p>

田中部会員	教育委員会より各学校のPTA役員に問い合わせる方が多いと思います。実際、秋平小学校や市PTA連合会の中では、いつ統合になるのか、どこが統合するのかという声があり、私は「まだ決まっていないけれど、子供が減っている現状がある」という回答をしているので、PTAの方が情報を持っていると思います。
山田部会員	私は東小学校のPTAですが、保護者からの意見はないです。
議長	学校や自治会はどうでしょうか。
早野部会員	藤田小学校は特にないです。
川田部会員	金屋小学校も特にないです。
逸見部会員	自治会にもないです。
飯野部会員	市全体ではなく学校関係者へのアンケートなので、特に話が出ていないと思います。
議長	保護者の皆さん、市民の皆さんは、冷静だと感じました。アンケートの対象が、在校生の保護者、新入学児童の保護者、教員でしたので、自治会まで行く話ではなかったかもしれません。 ②地域やまちづくりとの連携で、事務局に聞きますが、まちづくりの基本方針は、5年ほどで見直されるのでしょうか。
事務局 (参事兼教育総務課長)	市のまちづくりの上位計画は総合振興計画で、10年に一度見直し、その10年をさらに前期と後期で5年ごとに分け、今、後期計画を策定しているところです。
議長	当然、計画等と連動させながら、この案件について考えていかなければならず、先ほどの17号バイパスの話も関わってくると思います。
事務局 (参事兼教育総務課長)	市の総合振興計画の中には、どうやってまちづくりを進めていくかということで、土地利用構想がございます。国道17号は国直轄ですので、事業自体は国が行いますが、当然市のまちづくりに影響しますので、土地利用構想の中には入っています。
議長	本庄市の4中学校区の中の2中学校区が本庄道路に該当し、影響は出てくると考えられるので、まちづくり計画と学校の今後の在り方は、連動させていかななくてはならないと思います。例えば、学校が統合でなくなった地域は、学校がこれまで果たしてきた避難所や地域の文化的な場所などの役割を、公民館等が受け継いでいくのでしょうか。
事務局 (参事兼教育総務課長)	学校は、体育館が避難所になっているなど、地域にとって結びつきの強い施設でございます。公共施設全体の審議会がこの教育部会の上位にありますので、統合の検討を進めるに当たり、この基本的な考え方をもとに、今度は市全体の公共施設をどうしていこうかということを考えます。まちづくりとの関係、地域との関係、避

	難所のことなどを踏まえて、市全体の公共施設をどうしていくかを次のステップで考えることとなります。
議長	<p>上位の検討機関で考えることになるということです。②はよろしいですか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>③適正規模及び適正配置の方策を検討する時期について、当然、(1)とも連動してくると思いますが、まず子供の数、そして施設の耐久年数などを総合的に勘案するとなっています。ご意見等がありますか。</p>
高橋部会員	<p>本庄市がこれから縮小していくのか、寂れていくのか、もっと活力を持っていくのか、それを子供たちにどうつなげていくのか、という未来像が気になります。適正規模・適正配置の問題と、本庄市の未来はリンクするもので、どんな未来が待っているか、また我々の生活の場でもある本庄市が、これからどう活力を持っていくかを考えるとき、お金の心配事ばかりではないと思います。公民館は数が多いから統廃合した方がいいと言っても、寄り合い場がなくなる人がいて、仕方がないという言葉では解決しないコミュニティや地域社会、地縁のつながりが薄れてしまうことについて、今の適正規模・適正配置の中で、私達の身近な問題として捉えないといけないと思います。</p>
議長	<p>将来のことを心配した深いご発言だったと思います。将来のまちづくりと将来の学校の姿は連動すると思います。希望が見えるものでないといけないと思うので、希望を持って前へ進めるようにもっていただければいいと思います。</p> <p>引き続き、皆さんからご意見をお願いします。</p>
飯野部会員	<p>事務局の考え方の案ですが、アンケートで学校統合の検討について、保護者・教員共に60%以上の方が、複式学級になったら、一つの学年で1学級になったら、と回答しており、この回答に沿って作ったものだと思いますので、私の意見としては、この案に賛成です。</p>
逸見部会員	<p>改修などの時間の問題もあるので、統合の話を進めていけばいいと思います。</p>
山田部会員	<p>6.(3)③の、適切な集中投資による教育環境の機能向上を図るというのが、資料編の小学校の適正配置のメリットにもありますが、統廃合によってどれぐらい予算が確保できるのかが分かりません。教育環境の機能向上はどういうことなのか、メリットと</p>

	<p>いうわけですから、そこをしっかりと作ってそれが良ければ、統合はすごくスムーズにいくと思います。あと検討する時期ですが、言い切った方がいい気がします。この表現だといつやるのか全然分からず、検討は決めるわけではなく考え始める感じです。検討する時期が問題で、もう少し違う書き方があると思います。</p>
議長	<p>統合によって生み出されるお金がどれくらいで、集中投資するどのような機能向上が図れるかが見えると良いということ、また、もう少し検討する時期をはっきりと言えれば良いということ、二つのご意見がありました。後ほど事務局にまとめてもらいたいと思いますが、林部会員どうでしょうか。</p>
林部会員	<p>(3) ③で、「大規模改修事業の実施時期を踏まえ」という言葉が入ったのは良かったと思います。無駄にならないで済ませられるのは、私は賛成です。</p>
議長	<p>統合で浮いたお金を集中投資して機能向上が分かるようにするという山田部会員の意見、浮かせるには無駄な部分を出さないことが大事という林部会員の意見、2人の意見は、その点で一致していると思いました。田中部会員、ご意見お願いします。</p>
田中部会員	<p>事務局に聞きますが、次の総合振興計画の見直しはいつですか。</p>
事務局 (参事兼教育総務課長)	<p>10年で前期・後期をセットで考え、来年度から今の計画の中の後期が始まるので、今ある計画の次の計画という大きいくりで考えると、次の新しい総合振興計画は5年後にできる流れです。</p>
田中部会員	<p>総合振興計画などは、文章によって、読んだ側、市民に与える影響はずいぶん違う気がします。例えば今回のこの一連の話を、高橋部会員がおっしゃったように、子供たちの数が減るから仕方がないとするのか、本庄市の未来を考えある程度の規模があった方が子供の教育にとって良いとするかによって、モチベーションが全然違うと思います。ここに書かれる文章がそのまま総合振興計画に反映されるとは思いませんが、本庄市の未来はもっと明るいとしてほしいです。子供が減って仕方がないから、お金がないからとすると、市民は前を向けるのか、という気がします。やむを得ない中でも我々が目指したいところ、もっと明るく未来が見せられる記述が必要だと思います。こういう学校を作りたいのでこの学校を統合するとすれば、子供たちも地域も納得していくと思います。部会の上に公共施設の審議会があり、市長の判断もあると思いますが、将来のために必要な考え方だと思います。</p>
議長	<p>田中部会員と高橋部会員の考え方は、一致している部分が多くあります。「悲観的にならずに、前を向いて明るく元気な将来にするためにはこうする」という書きの方が市民も安心するから、同</p>

	<p>じ統合でも、新しい学校を作っていくというのと、子供が少なくなってきたから学校を減らします、というのでは、かなり受け取り方が違ってくるということで、文言をもう一度精査する必要があります。</p> <p>次に学校現場から、早野部会員お願いします。</p>
早野部会員	<p>高橋部会員、田中部会員がおっしゃった未来は大事なことだと思いますので、1. はじめに、の箇所に記載ができたらいと思います。もう一つ、18ページの検討基準で、複式学級の場合、単学級の場合とありますが、これは検討時期のベースになることだと思います。それに対して、(3) 配慮事項で、③の題が「適正規模及び適正配置の方策を検討する時期」ではない気がします。あくまでも検討する時期は(1)であって、③は、公共施設維持保全計画等を踏まえて時期も考えますという内容なので、題を検討した方がいいと思いました。</p>
議長	<p>まず、新しい学校という概念、希望を持てる部分を1. はじめに、に入れると良いという意見、それから、18ページの配慮事項の③の時期は、(1)で進められていて、ここはあくまで配慮事項なので、項目の立て方を検討した方がいいということです。</p> <p>川田部会員お願いします。</p>
川田部会員	<p>この部会は、子供たち一人一人に適した教育の場、学びの場が、どういうものかを改めて考える良い機会になりました。少人数学校の児童が、中学校で急に大人数になると適応できないことがある、という小規模校のデメリットを以前話しましたが、先日、神川町の校長から逆のお話を伺う機会がありました。大規模校で適応できないから、小規模校に転校したいという要望が全国からあり、実際に、他地域から転校してきた児童が数名いるそうです。先ほど田中部会員がおっしゃっていた、人数が減ったからという考え方ではなく、子供に適した教育環境、子供たちの実態に応じた学校を改めて作っていくという考え方がいいと思いました。</p> <p>今の教育では、子供同士が主体的に学び合うことがとても大事なことで、ある程度の人数が必要です。少人数でもできることはありますが、学級が複数あればクラス替えをするたびに新たな考えを持っている子と出会うことができます。小さな学校だと固定されたクラスなので、友達の考えが分かっしまい、新たな発見ができづらくなります。自分が一番だと思っていたのにクラス替えをしたらそうでもない、また、中学校では自分が一番だと思って高校に行ったら、自分より上の子がまだいると気づいた、というのはよくある話です。クラス替えのない少人数の学校では、教員が一人一人</p>

	<p>丁寧に見ることができるとは思いますが、もっといろいろな子と出会って学び合った方が伸びた子もいると思います。教育の様々な場面を与える上で、ある程度の規模の学校で学ばせてあげることが、子供たちの個別最適な学びの視点からも、必要になってくると思います。</p> <p>もう一つ考えるべきは、大人数の中で適応できない子をどう救っていくかです。先日LGBTの講演会で、「自分が周りの子と違う考えを持っている、周りの子と違っていいのではないかと考え、学校に行けなくなった」という講師自身の話を聞き、不登校の要因は、怠学ではなく、家庭環境、LGBTのようなこと、大人数の中だと緊張して生活できないなどもあると思います。本庄市は、さわやか相談室やふれあい教室で適応教室を実施していますが、今の規模では足りない気がします。もし、学校が統合された場合は、そこに専門的な方、子供が何に困っているのかを見極められるような人材を配置した適応教室を置ければいいと思います。子供たちも多様化しており、悩んでいる子についてソーシャルスキルワーカーやスクールカウンセラーの方に相談すると、「この子は怠けているのではなく、こういう特性があるかもしれない」という具体的、客観的な分析をしてくださり、登校を促した方がいいか、それとも少し個別に様子を見た方がいいかという話につながります。金屋小学校にはソーシャルスキルワーカーもスクールカウンセラーも常駐はしていませんが、大きな学校になれば、サポート教室や通級学級、特別支援学級とは違った適応教室などを一つの学校の中に設置して、大きな教室では適応できない子を一時的に多くの専門的な目で見て、その子にとって最適な学びの環境が何かを考えていくことが、今後さらに必要になると考えています。</p> <p>公共施設の話がありましたが、その中で適応教室のようなものを今後も増やしていく、または専門的な人材を確保する予算を増やすことなどを検討していただき、現実として起こっていることも踏まえて、統合した後の可能性ある姿を考えていければ良いと思います。地域やまちづくりの連携にも関係し、新たな本庄市の学校像にもつながってくると思います。</p>
議長	<p>新しい学校は大きい規模が望ましいけれど、いろいろな要因で適応できない子供がいるのも事実であるから、それを適応指導教室、あるいはそれに代わる施設等で指導することで充実を図っていく、これも新たな本庄市の学校教育の在り方ではないかというものを示していただきました。</p>
田島副部長	<p>藤田自治会長として会議に参加していますが、今まで学校と共</p>

	<p>に地域や自治会が一生懸命頑張ってきました。一緒に運動会に参加してきた経緯もございます。子供の人数が少ないので、統合検討は仕方ないと思いますが、将来、学校がなくなってしまうことは、自治会にとって非常に残念です。</p>
議長	<p>新しい学校の在り方を示していくこと、また、今後統合を進めていく上で、無駄を省いて浮いたお金を活用して教育機能を高めていくことなど、皆さんからご意見をいただきました。この考え方について、いただいたご意見を踏まえ、事務局に最終修正をしていただき、そして私の方でその部分を確認しまして、部会員の皆さんに再確認していただいた上で、審議会に提出する手順になると思います。皆さんから同意が得られればこの形で今後進めてまいりたいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">(異議なし)</p> <p>それでは、基本的な考え方については、この方向でまとめさせていただきます。皆様にはこれまでの議事進行にご協力いただきまして、ありがとうございます。感謝を申し上げまして、私の任務を解かせていただき、進行を事務局にお返しいたします。</p>
事務局 (教育総務課副参事)	<p>皆様には、貴重なご意見、慎重なご審議、大変ありがとうございました。また、議長を務めていただきました松本部会長にお礼申し上げます。ありがとうございました。</p> <p>続きまして、次第4「その他」でございますが、今後のスケジュールについて事務局からご連絡がございます。</p> <p>1点目といたしまして、本日の会議の会議録の案につきまして、部会員の皆様にご確認いただきたいと思っております。お手数ですが、お手元に届きましたら内容をご確認いただき、記載内容に修正等がございましたら、事務局までご連絡いただきますようお願い申し上げます。また、本日、ご指摘のありました内容を踏まえて資料を修正し、松本部会長にご確認いただいた後、皆様にもご確認いただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>事務局からの連絡は以上ですが、引き続き、教育委員会事務局長よりご挨拶申し上げます。</p>
事務局 (教育委員会事務局長)	<p>一言お礼のご挨拶を申し上げます。昨年7月の第1回から本日が第6回、計6回の会議を開催させていただき、部会員の皆様には熱心にご審議いただき、様々なご意見等をいただき、本日の会議で本庄市立小・中学校の適正規模及び適正配置の基本的な考え方(案)をおおむねまとめることができました。これもひとえに部会</p>

	<p>員の皆様のお陰だと思っております。ここに大変感謝を申し上げます。また部会長を務めていただきました東京福祉大学特任教授の松本様におかれましては、資料作成等の準備段階から、会議の運営におきまして、ご指導ご助言をいただきましたことに大変感謝を申し上げます。</p> <p>本部会は公共施設等マネジメント推進審議会において設置され、学校について専門的に調査・審議するよう求められていますので、この審議結果を3月下旬に審議会へ報告し、ご審議いただいた後は、この考え方を基に、学校規模適正化に向けて市民の皆様への説明や調整など、丁寧に取り組んでいく予定であります。そうしたことから、学校規模の適正化につきましては、まだまだこれからでございます。今後進めていくためには、様々な方々から、いろいろなご意見をいただくことが予想されます。部会員の皆様には今後とも学校規模適正化の推進に当たりまして、引き続きご協力をいただくとともに、ご指導等をいただければ幸いと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>まだまだ寒い日が続きます。皆様方のご健勝を心よりお祈り申し上げます。お礼の挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。</p>
事務局 (教育総務課副参事)	<p>続きまして、次第5「閉会」にあたりまして、田島副部会長より、ご挨拶を頂戴したいと思います。田島副部会長、よろしくお願いいたします。</p>
田島副部会長	<p>7月から始まり、本日で終了となります。皆様方の顔が見られなくなると寂しい気もしますが、長い間お疲れ様でした。感謝を申し上げます。閉会の挨拶とさせていただきます。</p>
事務局 (教育総務課副参事)	<p>以上をもちまして、第6回本庄市公共施設等マネジメント推進審議会部会を閉会いたします。ありがとうございました。</p>